



Sun N1 System Manager 1.2 コマ ンド行レファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-4875-10
2005 年 11 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Netra、N1、Sun Fire、Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.2 Command Line Reference Manual

Part No: 819-4144



051204@13215



目次

はじめに 9

1	コマンド行のヘルプ	13
	コマンドのヘルプ	13
	help コマンド	13
	add	14
	add group	14
	add osprofile	15
	add role	17
	add server	17
	add user	18
	connect	19
	connect server	19
	create	20
	create firmware	20
	create group	21
	create notification	22
	create os	24
	create osprofile	26
	create role	27
	create update	27
	create user	29
	delete	30
	delete firmware	30
	delete group	30
	delete job	31

delete notification 31
delete os 31
delete osprofile 32
delete role 32
delete server 33
delete update 33
delete user 33
discover 34
exit 35
load 36
load group 36
load server 38
remove 42
remove group 42
remove osprofile 42
remove role 43
remove server 44
remove user 45
reset 45
reset group 45
reset server 46
set 46
set firmware 47
set group 48
set notification 49
set os 50
set osprofile 50
set role 53
set server 54
set session 56
set user 57
show 57
show firmware 58
show group 59
show job 59
show log 61
show notification 62
show os 63

show osprofile	63
show privilege	64
show role	64
show server	65
show session	67
show update	67
show user	68
start	68
start group	69
start notification	69
start server	70
stop	71
stop group	71
stop job	71
stop notification	72
stop server	72
unload	72
unload group	73
unload server	73
オブジェクトのヘルプ	74
firmware	75
group	75
job	75
log	76
notification	76
os	76
osprofile	77
privilege	77
role	77
server	78
session	78
update	78
user	78

例目次

はじめに

『Sun N1™ System Manager コマンド行リファレンスマニュアル』は、対話モードまたは非対話モードのいずれかで `n1sh help` コマンドによって表示されるオンラインヘルプと同じ内容を提供しています。このマニュアルは、N1 System Manager で使用可能なすべてのコマンドのリファレンスとして使用できます。

対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager ソフトウェアが動作するプロビジョニング可能なサーバーの管理を担当するシステム管理者を対象にしています。このマニュアルは、読者に次の基礎的な知識があるものと想定しています。

- Linux および Solaris™ オペレーティングシステム、各オペレーティングシステムが提供するネットワーク管理ツールに関する知識
- Sun Microsystems、Cisco などのさまざまなベンダーのネットワーク機器およびネットワークデバイスに関する知識
- ネットワークデバイスの相互接続およびケーブル接続に関する知識

関連マニュアル

次のマニュアル、ヘルプには、N1 System Manager のインストール、使用に役立つ情報が掲載されています。

- 『Sun N1 System Manager 1.2 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 インストールおよび構成ガイド』

- 『Sun N1 System Manager 1.2 管理ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.2 ご使用にあたって』

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING `

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルのデフォルトのシステムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	machine_name%
C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#

第 1 章

コマンド行のヘルプ

ここでは、コマンド行で `help` コマンドを使用して表示できるヘルプと同じ内容を示します。

コマンドのヘルプ

help コマンド

ヘルプは、次の方法で表示することができます。

- `help command - help` と入力すると、使用可能な *command object* コマンドの一覧とそれぞれのコマンドの説明が表示されます。例: `help show`。
- `help command object - command object` の使用法の詳細が表示されます。例: `help show server`。
- `help object` - オブジェクトの詳細情報が表示されます。例: `help server`。

使用可能なコマンドを次の表に示します。

コマンド	機能説明
<code>add</code>	オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。
<code>connect</code>	プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。
<code>create</code>	N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成 (またはコピー) します。
<code>delete</code>	N1 System Manager からオブジェクトを削除します。

コマンド	機能説明
discover	管理対象にする新しいサーバーを検出します。
exit	N1-ok> シェルを終了します。
help	コマンドまたはオブジェクトに関するヘルプを表示します。help コマンドの代わりに ? を使用することもできます。help help は有効なコマンドではありません。
load	サーバーまたはサーバーグループにソフトウェアをインストールします。
remove	オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。
reset	サーバーまたはサーバーグループの電源をオフにしてから、オンにします。
set	サーバー、サーバーグループ、またはオブジェクトで属性を変更します。
show	オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。
start	オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばサーバーの電源を入れて起動することができます。
stop	オブジェクトを無効にします。たとえばサーバーを停止して電源を切ることができます。
unload	サーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

指定可能なオブジェクトについては、[74 ページの「オブジェクトのヘルプ」](#) の項で説明しています。

add

オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。

機能説明

add コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 group、osprofile、role、server、user。

help add *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

add group

既存のサーバーグループにプロビジョニング可能なサーバーを追加し、複数のサーバーの管理操作を行いやすくします。新しいサーバーグループを作成する方法については、[21 ページの「create group」](#) を参照してください。

形式

- サーバグループに特定の 1 つ以上のサーバを追加する場合
`add group group server server[,server...]`
- 使用可能なすべてのサーバをサーバグループに追加する場合
`add group group server all`

パラメータ

- `all` – サーバグループにすべてのサーバを追加します。
- `group` – サーバグループの名前です。
- `server` – 追加するサーバの管理名です。

add osprofile

既存の OS プロファイルにディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを追加します。

機能説明

OS プロファイルでディストリビューショングループが指定されていない場合は、デフォルトで、Entire Distribution plus OEM Support (Solaris)、Everything (Red Hat)、または Default Installation (SUSE) の各グループがインストールされます。有効な Solaris プロファイルには、少なくとも 1 つのパーティション (ルート)、有効な Linux プロファイルには少なくとも 2 つのパーティション (ルートおよびスワップ) が必要です。

形式

- OS プロファイルにディストリビューショングループを追加する場合
`add osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup`
- OS プロファイルにディスクパーティション情報を追加する場合
`add osprofile osprofile partition partition device device maxsize maxsize size size sizeoption sizeoption type type`
- OS プロファイルに OS アップデートを追加する場合
`add osprofile osprofile update update`
- OS プロファイルにカスタムインストールスクリプトを追加する場合
`add osprofile osprofile script script type type`

パラメータ

- *device* – パーティション用のディスクスライスです。例: *c1t1d0s1* (Solaris) または *sda* (Linux)。
- *distributiongroup* – インストールするディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。ディストリビューショングループを指定しなかった場合、デフォルトで、Entire Distribution plus OEM Support (Solaris)、Everything (Red Hat)、または Default Installation (SUSE) の各グループがインストールされます。show os os コマンドを使用し、OS のディストリビューショングループ一覧を表示することができます。
- *maxsize* – (Red Hat のみ) ファイルシステムの最大サイズ (M バイト単位) です。このオプションを使用し、*sizeoption* の *free* 値に制限を設けることができます。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。
- *partition* – パーティションのマウントポイント名です。デフォルト値は / (ルート) です。
- *script* – カスタムインストールスクリプトの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *size* – ファイルシステムのサイズ (M バイト単位) です。このオプションは、*sizeoption* を *fixed* 値に設定して指定する必要があります。
- *sizeoption* – ファイルシステムのサイズの決定方法です。有効な値には次のようなものがあります。
 - *fixed* – ファイルシステムは、*size* 属性で設定されたサイズに設定されます。
 - *free* – ディスク上の残りの未使用領域をファイルシステム用に使用します。Red Hat プロファイルの場合は、*maxsize* を指定してファイルシステムのサイズを制限できます。
- *type* (パーティションの追加) – ファイルシステムの種類です。デフォルト値は、Solaris の場合は *ufs*、Linux の場合は *ext3* です。有効な値には次のようなものがあります。
 - Solaris: *swap* または *ufs*
 - Red Hat: *ext2*、*ext3*、*swap*、または *vfat*
 - SUSE: *ext2*、*ext3*、*jfs*、*reiser*、*swap*、または *xfs*
- *type* (スクリプトの追加) – インストール中にカスタムスクリプトを実行するタイミングです。有効な値には次のようなものがあります。
 - *pre* – インストールの前にスクリプトを実行します (例: ドライバ)。
 - *post* – インストール後にスクリプトを実行します。
 - *postnochroot* – インストール後にスクリプトを実行します。ただし、スーパーユーザー (*root*) で実行する必要はありません。
- *update* – OS アップデートの名前です。

add role

既存のロールに権限を追加します。新しいロールを作成する方法については、[27 ページの「create role」](#) を参照してください。

形式

- ロールにすべての権限を追加する場合

```
add role role privilege all
```

- ロールに特定の 1 つ以上の権限を追加する場合

```
add role role privilege privilege[,privilege...]
```

パラメータ

- *all* – ロールにすべての権限を追加します。
- *role* – ロールの名前です。権限は、システムの次のデフォルトロールには追加できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。
- *privilege* – ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。

add server

プロビジョニング可能なサーバーに N1 System Manager の機能を追加します。

機能説明

N1 System Manager の機能を利用するには、プロビジョニング可能なサーバーに機能を追加する必要があります。機能には、OS アップデートとリモートコマンドの実行に必要な基本管理機能と、サーバー上の OS リソースの健全性を監視するために必要な OS 監視機能の 2 種類があります。機能を追加すると、プロビジョニング可能なサーバーに機能がインストールされ、指定したエージェントの資格が設定され、サーバー上でその機能を利用できるようになります。OS 監視機能の場合、監視は自動的に有効になります。show server の出力の「Base Management Supported」フィールドと「OS Monitoring Supported」フィールドは、サーバーの機能の現在のサポート状態を示します。

Sun N1 System Manager を以前のリリースからアップグレードしたあと、upgrade キーワードを指定してこのコマンドを実行すると、プロビジョニング可能なサーバーの既存の機能をアップグレードできます。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーに OS 監視機能および基本管理機能を追加する場合

```
add server server feature osmonitor agentip agentip agentssh agentssh  
[agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]
```

- プロビジョニング可能なサーバーに基本管理機能を追加する場合

```
add server server feature basemanagement agentip agentip agentssh agentssh
```

- プロビジョニング可能なサーバーの機能をアップグレードする場合

```
add server server feature feature upgrade [agentip agentip agentssh agentssh]
```

パラメータ

- *agentip* – プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する IP アドレスを指定します。*agentip* は通常、サーバー上のプロビジョニングネットワークインタフェースの IP アドレスです。
- *agentsnmp* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP 資格を指定します。*agentsnmp* の形式は、読み込みコミュニティ文字列です。デフォルトの SNMP 読み込みコミュニティ文字列は *public* です。
- *agentsnmpv3* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP Version 3 資格を指定します。*agentsnmpv3* の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *snmpv3-username/snmpv3-password*。
- *agentssh* – プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの *root* 権限が必要です。*agentssh* は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。
- *basemanagement* – 基本管理機能を追加またはアップグレードします。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
- *feature* – 有効な値は、*basemanagement* および *osmonitor* です。
- *osmonitor* – OS 監視機能を追加またはアップグレードします。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。
- *server* – サーバーの管理名です。
- *upgrade* – 機能を最新のバージョンにアップグレードします。

add user

ユーザーにロールを追加します。ロールが追加されたユーザーは、そのロールの役割を果たすことが可能になり、そのロールに関連付けられている権限を得ることができます。

形式

- ユーザーにロールを追加します。

```
add user user role role [, role...]
```

パラメータ

- *role* – ユーザーに追加するロールの名前です。show role all コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。
- *user* – ユーザーの名前です。

connect

プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

connect コマンドは、server オブジェクトに使用することができます。

詳細を参照するには、help connect server と入力してください。

connect server

プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

connect server コマンドを使用して、インストールを監視したり、管理作業を行えるようにします。ほとんどのハードウェアプラットフォームでは、ログインする最初のユーザーに、シリアルコンソール上での読み取り、書き込みの権限が付与され、次のユーザーセッションは読み取り専用モードになります。一部のプラットフォームでは、同じサーバー上での複数のシリアルコンソールセッションは許可されていません。次のエスケープシーケンスを使用すると、いつでもシリアルコンソール接続を終了できます。

ALOM ベースのシステム – # .

Sun Fire(TM) X4000 シリーズのシステム – ESC (

Sun Fire V20z および V40z システム – ^E c .

このコマンドは、ブラウザインタフェースのコマンド行では使用できないことに注意してください。ただし、ブラウザインタフェースでは、「サーバーの詳細」ページで「アクション」メニューから「シリアルコンソールを開く」を選択することによって

サーバーのシリアルコンソールにアクセスできます。また、このコマンドはユーザーの入力が必要であるため、`n1sh -f` コマンドで使用するカスタム N1 System Manager スクリプト内で使用しないでください。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

```
connect server server
```

パラメータ

- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

create

このコマンドは、N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成します。また、N1 System Manager の外部にすでに存在するオブジェクトをコピーすることもできます。

機能説明

`create` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。`firmware`、`group`、`notification`、`os`、`osprofile`、`role`、`update`、`user`。

`help create object` と入力すると、詳細情報を得ることができます。

N1 System Manager へのプロビジョニング可能なサーバーの追加については、[34 ページの「discover」](#) を参照してください。

create firmware

N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。保存したファームウェアアップデートは、プロビジョニング可能なサーバーにインストールできます。

形式

- N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。

```
create firmware firmware [description description] model model [,model]  
[type type] url url vendor vendor [version version]
```

パラメータ

- *description* – ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの一意の名前です
- *model* – ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra(TM) 240
 - NETRA-440 – Netra 440
 - SF-T1000 – Sun Fire T1000
 - SF-T2000 – Sun Fire T2000
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *type* – ファームウェアアップデートの種類です。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP – サービスプロセッサ
- *url* – コピーするファームウェアアップデートへの URL パスです。管理サーバーからアクセス可能なファイルの場合は `file:///`、Web サイト上に存在するファイルの場合は `http://` を使用します。
- *vendor* – ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* – ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

create group

新しいサーバーグループを作成します。ビジネスまたは管理上の必要性に応じてプロビジョニング可能なサーバーをグループにまとめることができます。

形式

- 新しいサーバーグループを作成し、サーバーを追加する場合

```
create group group server server[,server]
```
- 新しいサーバーグループを作成し、すべてのサーバーを追加する場合

```
create group group server all
```

パラメータ

- *all* – サーバグループにすべてのサーバを追加します。
- *group* – 新しいサーバグループの名前です。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバの管理名です。

create notification

新しい通知規則を作成します。

形式

- 新しい通知規則を作成します。

```
create notification notification destination destination topic topic  
type type [description description]
```

パラメータ

- *description* – 通知規則の説明です。
- *destination* – 通知の送信先です。この値は、指定されている *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* – 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *snmp-host[:port]* – SNMP ホストです。*snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、*port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *notification* – 通知規則の名前です。
- *topic* – 通知のトリガとなるイベントの種類です。有効な値には次のようなものがあります。
 - *Action.Logical.FirmwareCreate* (ファームウェア作成完了)
 - *Action.Logical.FirmwareDelete* (ファームウェア削除完了)
 - *Action.Logical.JobCompleted* (ジョブ完了)
 - *Action.Logical.JobStarted* (ジョブ開始)
 - *Action.Logical.JobTimedOut* (ジョブのタイムアウト)
 - *Action.Logical.ProfileCreate* (OS プロファイル作成完了)
 - *Action.Logical.ProfileDelete* (OS プロファイル削除完了)
 - *Action.Logical.OSDeployComplete* (OS 配備完了)

- Action.Logical.OSDeployStart (OS 配備開始)
- Action.Physical.AddCoreJobSuccess (基本管理機能追加完了)
- Action.Physical.AgentIPJobSuccess (管理機能の設定変更完了)
- Action.Physical.AlreadyKnown (検出済み時のサーバー検出)
- Action.Physical.Discovered (サーバー検出済み)
- Action.Physical.DriverNotFound (サーバー検出時にドライバなし)
- Action.Physical.FWNotCompatible (ファームウェアレベルは、互換性なし、またはサポートされていない)
- Action.Physical.InitialAddOsmJobSuccess (OS 監視機能および基本管理機能の追加完了)
- Action.Physical.IPUnreachable (サーバー検出時に IP アドレス到達不能)
- Action.Physical.LoadUpdateSuccess (OS アップデートの配備成功)
- Action.Physical.LoadUpdateFailure (OS アップデートの配備失敗)
- Action.Physical.LoadUpdateCanceled (OS アップデートの配備取り消し)
- Action.Physical.MultipleAuths (サーバー検出時に複数の権限)
- Action.Physical.MultipleIPs (サーバー検出時に複数の IP)
- Action.Physical.RemoteCmdFailure (リモートコマンド失敗)
- Action.Physical.RemoteCmdSuccess (リモートコマンド成功)
- Action.Physical.RemoteCmdTimedOut (リモートコマンドのタイムアウト)
- Action.Physical.RemoteCmdUnauthorized (リモートコマンドの権限なし)
- Action.Physical.RemoveOsmJobSuccess (OS 監視機能の削除完了)
- Action.Physical.ServerDelete (サーバーの削除完了)
- Action.Physical.ServerStateChange (サーバーの変更完了)
- Action.Physical.Unauthorized (サーバー検出の権限なし)
- Action.Physical.UnloadUpdateSuccess (OS アップデートのアンロード成功)
- Action.Physical.UnloadUpdateFailure (OS アップデートのアンロード失敗)
- Action.Physical.UnloadUpdateCanceled (OS アップデートのアンロード取り消し)
- EReport.Logical.ThresholdExceeded (OS リソースしきい値超過)
- EReport.Physical.DomainException (ドメイン例外)
- EReport.Physical.Exception (リモートコマンド例外)
- EReport.Physical.FWMgrException (ファームウェアアップデート例外)

- `EReport.Physical.IOException` (入出力例外)
- `EReport.Physical.OpGrpException` (サーバー検出操作グループ例外)
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownOS` (リモートコマンドで未知の OS)
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownServer` (リモートコマンドで不明なサーバー)
- `EReport.Physical.ThresholdExceeded` (ハードウェアの健全性しきい値超過)
- `Lifecycle.Logical.AddServer` (グループへのサーバー追加完了)
- `Lifecycle.Logical.ChangeSessionRole` (セッションロール変更完了)
- `Lifecycle.Logical.CreateGroup` (グループの作成完了)
- `Lifecycle.Logical.CreateUpdate` (OS アップデートの作成完了)
- `Lifecycle.Logical.DeleteGroup` (グループの削除完了)
- `Lifecycle.Logical.DeleteUpdate` (OS アップデートの削除完了)
- `Lifecycle.Logical.RemoveServer` (グループからのサーバーの削除完了)
- `Lifecycle.Physical.DBUpdateFailed` (ファームウェアアップデートでデータベースの更新失敗)
- `Lifecycle.Physical.InvalidState` (ファームウェアアップデートで無効なデバイス状態)
- `Lifecycle.Physical.ObjectJobNotFound` (処理用のサーバーなし)
- `Lifecycle.Physical.UpdateSucceeded` (ファームウェアのアップデート成功)
- *type* – 通知の送信方法です。有効な値は、`email` (電子メールアドレスに送信) および `snmp` (SNMP ホストに送信) です。

create os

OS イメージを管理サーバーにコピーします。これにより、プロビジョニング可能なサーバーにインストールできるようになります。

機能説明

ISO ファイル、CD、または DVD から呼び出された OS ディストリビューションの OS イメージをコピーすることができます。N1 System Manager は、Solaris OS CD および CD ISO ファイルのコピーはサポートしていないことに注意してください。コピーには、Solaris DVD または DVD ISO ファイルを使用してください。

プロビジョニングを行う OS ディストリビューションごとに 3.0G バイト以上を割り当てる必要があります。

Solaris の管理サーバーでは、OS ディストリビューションは次の場所に保存されます。

– Linux OS ディストリビューション: /var/opt/SUNWscs/share/allstart

– Solaris OS ディストリビューション: /var/js

Linux の管理サーバーでは、OS ディストリビューションは次の場所に保存されます。

– Linux OS ディストリビューション: /var/opt/sun/scs/share/allstart/

– Solaris OS ディストリビューション:

/var/opt/sun/scs/share/allstart/jumpstart/

複数枚の インストール CD から OS ディストリビューションをコピーする場合は、同じ OS ディストリビューション名を指定して `create os` コマンドを複数回実行する必要があります。たとえば 2 枚の CD で提供されている OS ディストリビューションをコピーする場合は、最初の CD を挿入してから、`create os` コマンドを実行し、そのジョブが完了するのを待ちます。最初のジョブが完了したら、2 枚目の CD を挿入し、再度 `create os` コマンドを実行してそのジョブが完了するのを待ちます。2 つ目のジョブが完了すると、OS ディストリビューションのインストールが成功したことになります。

SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 ディストリビューションをコピーするときは、`create os` コマンドを複数回実行する必要があります。最初に、SLES 9 基本ディストリビューションをコピーします。基本ディストリビューションのコピーが完了したら、SLES 9 Update 1 ディストリビューションをコピーできます。

OS ディストリビューションを新しく作成すると、その OS ディストリビューションごとに、ディストリビューションと同じ名前を使用してデフォルトの OS プロファイルが自動的に作成されます。デフォルトのプロファイルは、例として示されます。多くの場合、使用しているハードウェアに合致するようにデフォルトのプロファイルを更新する必要があります。更新するよりも、単に新しいプロファイルを作成するほうがより簡単な場合があります。`show osprofile osprofile` コマンドで、OS プロファイルの構成情報を表示できます。

形式

- ISO ファイルから OS ディストリビューションをコピーする場合

```
create os os file file[,file...]
```

- インストール CD/DVD から OS ディストリビューションをコピーする場合

```
create os os cdrom cdrom
```

パラメータ

- *file* – 管理サーバーからアクセス可能な ISO ファイルの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *cdrom* – インストール CD/DVD の絶対パスです。Solaris DVD の場合、スライスをパスの一部として指定する必要があります。例: /cdrom/cdrom/s2。

- *os* – OS ディストリビューションの名前です。

create osprofile

新しい OS プロファイルを作成します。

機能説明

`create osprofile` コマンドに加え、OS プロファイルを使用できるようにするには、`add osprofile` コマンドを使用して、ディストリビューショングループ、パーティション情報、リソース、およびスクリプトを OS プロファイルに追加する必要があります。

このコマンドを使用し、既存のプロファイルのクローン (コピー) を作成することもできます。プロビジョニング可能なサーバーのインストールに使用したプロファイルを変更するか、そのコピーを作成する場合は、このコマンドを使用する必要があります。

形式

- 新しい OS プロファイルを作成する場合

```
create osprofile osprofile os os rootpassword rootpassword
[description description] [flar flar] [language language]
[timezone timezone]
```

- 既存の OS プロファイルのコピーを作成する場合

```
create osprofile osprofile clone oldprofile
```

パラメータ

- *os* – インストールする OS ディストリビューションの名前です。
- *description* – 新しい OS プロファイルの説明です。
- *flar* – (Solaris のみ) フラッシュアーカイブファイルの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *language* – インストールでのデフォルトの言語です。デフォルト値は `en_US` (英語) です。

Linux プロファイルの場合、有効な値は `cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。

Solaris プロファイルの場合、有効な値は `C`、`en_US.ISO8859-15`、`en_US.ISO8859-1`、`en_US` です。

- *rootpassword* – インストール後のサーバーの root パスワードです。
- *osprofile* – 新しい OS プロファイルの名前です。
- *oldprofile* – コピーを作成する OS プロファイルの名前です。
- *timezone* – インストール場所のタイムゾーンです。デフォルト値は *gmt* です。
Linux プロファイルの場合、有効な値は *timeconfig* コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。
Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の
/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリにあるディレクトリおよびファイル
に含まれています。timezone 値は、/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリ
への相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の timezone 値は
US/Mountain です。日本の timezone 値は Japan です。

create role

新しいロールを作成します。権限が指定されない限り、新しいロールはデフォルトにより権限追加しません。

形式

- 1 つ以上の権限を持つ新しいロールを作成します。

```
create role role [description description]  
[privilege privilege[,privilege...]]
```

パラメータ

- *description* – 新しいロールの説明です。
- *privilege* – ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。add role コマンドを使用し、あとで権限を追加することもできます。
- *role* – 新しいロールに使用する名前です。

create update

N1 System Manager に OS アップデートをコピーします。保存した OS アップデートを、プロビジョニング可能なサーバーにインストールできます。

機能説明

さまざまな種類の OS アップデートをコピーできます。Linux オペレーティングシステム用の RPM、Solaris オペレーティングシステム用のパッケージまたはパッチがあります。デフォルトでは、load コマンドによって、対応するネイティブの OS コマン

ドを使用して OS アップデートがインストールされます。ただし、デフォルトのインストールに優先するインストールスクリプトを指定して、カスタムインストールを実行できます。詳細は、『Sun N1 System Manager 管理ガイド』の「パッケージ、パッチ、および RPM の管理」を参照してください。

形式

- Linux RPM、Solaris パッケージ、または Solaris パッチをコピーします。

```
create update update file file ostype ostype[,ostype...] [adminfile adminfile]  
[installscriptfile installscriptfile] [responsefile responsefile]
```

パラメータ

- *adminfile* – (Solaris パッケージのみ) 管理ファイルの絶対パスです。
- *file* – 管理サーバーからアクセス可能なファイルの絶対パス、または Linux RPM、Solaris パッケージ、または Solaris パッチの URL です。
 - Linux RPM – 1 つの .rpm ファイルです。
 - Solaris パッケージ – 有効なデータストリーム形式の .pkg ファイルです。1 つ以上のパッケージが含まれます。 .pkg 拡張子は不要です。1 つ以上のパッケージを含む .tar ファイルを指定することもできます。 .tar ファイルに複数のパッケージが含まれる場合は、インストールスクリプトを指定する必要があります。
インストールスクリプトを使用しない場合、.tar ファイル名は、tar の展開後の最上位ディレクトリ名と同じである必要があります。たとえば tar ファイルが SUNWstade.tar の場合、tar の展開後の最上位ディレクトリ名は SUNWstade である必要があります。
 - Solaris パッチ – 1 つのパッチ、または 1 つ以上のパッチを含む .tar ファイルを含む *.zip ファイルです。 .tar ファイルにはインストールスクリプトを指定する必要があります。

例: /tmp/test-i386.rpm または
http://updatesite1/rpms/test-i386.rpm

- *ostype* – OS アップデートと互換性がある OS バージョンのリストです。追加する OS アップデートの種類は、指定する OS の種類と一致する必要があります。一般に、Solaris OS のアップデートでは、有効な OS の種類は 1 つだけです。有効な値には次のようなものがあります。
 - redhat-as3 – Red Hat Enterprise Linux AS 3.0
 - redhat-as3-64 – Red Hat Enterprise Linux AS 3.0, 64 ビット
 - redhat-as4 – Red Hat Enterprise Linux AS 4.0
 - redhat-as4-64 – Red Hat Enterprise Linux AS 4.0, 64 ビット
 - redhat-es3 – Red Hat Enterprise Linux ES 3.0
 - redhat-es3-64 – Red Hat Enterprise Linux ES 3.0, 64 ビット
 - redhat-es4 – Red Hat Enterprise Linux ES 4.0

- `redhat-es4-64` – Red Hat Enterprise Linux ES 4.0, 64 ビット
- `redhat-ws3` – Red Hat Enterprise Linux WS 3.0
- `redhat-ws3-64` – Red Hat Enterprise Linux WS 3.0, 64 ビット
- `redhat-ws4` – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0
- `redhat-ws4-64` – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0, 64 ビット
- `solaris9sparc` – Solaris 9 7/05 SPARC 版
- `solaris9x86` – Solaris 9 7/05 x86 版
- `solaris10sparc` – Solaris 10 SPARC 版
- `solaris10x86` – Solaris 10 x86 版
- `suse-es9` – SUSE Linux Enterprise Server 9
- `suse-es9-64` – SUSE Linux Enterprise Server 9, 64 ビット
- `suse-pro92` – SUSE Professional Edition 9.2
- `suse-pro92-64` – SUSE Professional Edition 9.2, 64 ビット
- `suse-pro93` – SUSE Professional Edition 9.3
- `suse-pro93-64` – SUSE Professional Edition 9.3, 64 ビット
- `installscriptfile` – (Solaris のみ) Solaris のパッケージやパッチのインストールに使用する実行可能な Bourne (`/bin/sh`) シェルスクリプトの絶対パスです。インストールスクリプトを指定し、`load server|group update` コマンドを使用してアップデートをインストールする場合は、`load` コマンドによって、アップデートファイルとインストールスクリプトの両方がプロビジョニング可能なサーバーの `/tmp` ディレクトリにコピーされます。
- `responsefile` – (Solaris パッケージのみ) 応答ファイルの絶対パスです。
- `update` – OS アップデートの名前です。

create user

N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。ユーザーは、管理サーバーの OS にすでに存在する必要があります。ロールが指定されない限り、新しいユーザーはデフォルトによりロール追加しません。

形式

- 1 つ以上のロールを持つ N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。

```
create user user [role role[,role...]]
```

パラメータ

- `role` – ユーザーに追加するロールの名前です。`show role all` コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。`add user` コマンドを使用し、あとでロールを追加することもできます。
- `user` – 新しいユーザーの名前です。名前は、管理サーバーのオペレーティングシステム上の対応するユーザーと同じである必要があります。

delete

N1 System Manager からオブジェクトを削除します。

機能説明

delete コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。firmware、group、job、notification、os、osprofile、role、server、update、user。

help delete *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

delete firmware

N1 System Manager から、ファームウェアアップデートを削除します。

形式

- ファームウェアアップデートを削除します。

```
delete firmware firmware
```

パラメータ

- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。

delete group

サーバーグループを削除します。N1 System Manager からプロビジョニング可能なサーバーが削除されるわけではありません。

形式

- サーバーグループを削除します。

```
delete group group
```

パラメータ

- *group* – 削除するサーバーグループの名前です。

delete job

ジョブを削除します。

形式

- 特定のジョブを削除する場合
`delete job job`
- すべてのジョブを削除する場合
`delete job all`

パラメータ

- *all* – すべてのジョブを削除します。
- *job* – ジョブの識別番号です。

delete notification

通知規則を削除します。

形式

- 通知規則を削除します。
`delete notification notification`

パラメータ

- *notification* – 削除する通知規則の名前です。

delete os

N1 System Manager から OS ディストリビューションを削除します。

機能説明

OS ディストリビューションは、プロビジョニング可能なサーバーに配備されていても、削除できます。ただし、OS ディストリビューションを削除するには、その前に `delete osprofile` コマンドを使用して、関連付けられているすべての OS プロファイルを管理サーバーから削除する必要があります。

形式

- OS ディストリビューションを削除します。

```
delete os os
```

パラメータ

- *os* – 削除する OS ディストリビューションの名前です。

delete osprofile

OS プロファイルを削除します。

機能説明

OS プロファイルは、プロビジョニング可能なサーバーに配備されていても、削除できます。ただし、使用中の (サーバーにアクティブに配備されている) プロファイルを削除することはできません。show osprofile コマンドを実行すると、OS プロファイルが使用中であるかがわかります。

形式

- OS プロファイルを削除します。

```
delete osprofile osprofile
```

パラメータ

- *osprofile* – 削除する OS プロファイルの名前です。

delete role

ロールを削除します。ユーザーに割り当てられている場合、ロールは削除できません。

形式

- ロールを削除します。

```
delete role role
```


パラメータ

- *role* – 削除するロールの名前です。

delete server

N1 System Manager からサーバーを削除します。そのサーバーは、`show server all` コマンドで得られる一覧に表示されなくなります。

形式

- N1 System Manager から、すべてのサーバーを削除する場合

```
delete server all
```

- N1 System Manager から、特定のサーバーを削除する場合

```
delete server server
```

パラメータ

- *all* – すべてのサーバーを N1 System Manager から削除します。
- *server* – サーバーの管理名です。

delete update

N1 System Manager から OS アップデートを削除します。

形式

- OS アップデートを削除します。

```
delete update update
```

パラメータ

- *update* – 削除する OS アップデートの名前です。

delete user

N1 System Manager のユーザーを削除します。管理サーバーの OS からユーザーが削除されることはありません。

形式

- N1 System Manager のユーザーを削除します。

```
delete user user
```

パラメータ

- *user* – 削除するユーザーの名前です。

discover

N1 System Manager の管理対象にする新しいプロビジョニング可能なサーバーを検出して追加します。

機能説明

新しいプロビジョニング可能なサーバーを検出対象に設定する方法については、『Sun N1 System Manager サイト計画の手引き』の第 2 章を参照してください。

各ハードウェアプラットフォームが検出されるためには、一定の資格が必要です。ALOM ベースのシステムでは telnet、Sun Fire V20z および V40z サーバーでは SSH、IPMI、SNMP、Sun Fire X4000 シリーズのシステムでは SSH と IPMI、Sun Fire X2100 サーバーでは IPMI が必要です。

サーバーが検出されるには、次の条件が満たされている必要があります。

– プロビジョニング可能なサーバーの認証資格を指定するか、サーバーが出荷時のデフォルト状態であるか (Sun Fire V20z または V40z サーバーのみ)、または検出プロセスによって使用されるデフォルトの資格でサーバーが設定されている必要があります。資格を指定しなかった場合に検出プロセスによって使用されるシステム固有のデフォルトの資格の一覧については、『Sun N1 System Manager サイト計画の手引き』の「プロビジョニング可能なサーバーの設定」を参照してください。

– プロビジョニング可能なサーバーの管理ネットワーク IP アドレスが設定されていて N1 System Manager からアクセスできるネットワーク上にある必要があります。

形式

- サーバーを検出し、N1 System Manager に追加します。

```
discover ip[,ip...] [group group] [ipmi ipmi] [snmp snmp] [ssh ssh]  
[telnet telnet]
```

パラメータ

- *ip* – 検出するプロビジョニング可能なサーバーの管理ネットワーク IP アドレスです。次の形式で、複数の *ip* のインスタンスを指定することができます。コンマで区切って指定します。
 - *ip-address* – 単一の管理ネットワーク IP アドレス。
 - *ip-address-ip-address* – 管理ネットワーク IP アドレスの範囲。例:
10.5.10.1-10.5.10.100
 - *subnet/mask-length* – サブネットとそのマスクの長さ。例: 10.0.8/24 または 10.0.8.128/28
- *group* – 検出したサーバーの追加先のサーバーグループ名です。サーバーグループが存在しない場合は、検出中に作成されます。
- *ipmi* – 検出プロセスの認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく IPMI 資格を指定します。*ipmi* 値は IPMI ユーザー名/パスワードの組み合わせです。IPMI 資格が指定されておらず、Sun Fire V20z または V40z サーバーが出荷時のデフォルト状態の場合、サーバーの IPMI ユーザー/パスワードは検出プロセスによって Null/admin に設定されます。検出に使用されるデフォルトの IPMI 資格は、サーバーモデルによって異なります。
- *snmp* – 検出プロセスの認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく SNMP 資格を指定します。*snmp* の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。デフォルトの SNMP 読み込みコミュニティ文字列は public です。
- *ssh* – 検出プロセスの認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく SSH 資格を指定します。*ssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。SSH 資格が指定されておらず、Sun Fire V20z または V40z サーバーが出荷時のデフォルト状態の場合、サーバーの SSH ユーザー/パスワードは検出プロセスによって admin/admin に設定されます。検出に使用されるデフォルトの SSH 資格は、サーバーモデルによって異なります。
- *telnet* – 検出プロセスの認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく telnet 資格を指定します。telnet 資格を使用するのは、ALOM ベースのシステムのみです。*telnet* の形式は、telnet 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *telnet-username/telnet-password*。検出に使用されるデフォルトの telnet 資格は、サーバーモデルによって異なります。

exit

N1-ok> シェルを終了します。N1-ok> シェルがデフォルトのシェルの場合は、N1 System Manager から完全にログアウトします。デフォルトのシェルでない場合は、管理サーバーの元のシェルに戻ります。

形式

- N1-ok> シェルを終了します。

```
exit
```

load

プロビジョニング可能なサーバーにソフトウェアをインストールします。

機能説明

load コマンドは、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、ファームウェアアップデート、OS アップデート (パッケージ、パッチ、RPM) をインストールします。load コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group および server。

help load *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

load group

プロビジョニング可能なサーバーのグループに、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデートなどのソフトウェアをインストールします。

形式

- サーバグループに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile ip ip networktype static  
[excludeserver server[,server...]]  
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]  
[server-configuration-attributes]
```

- サーバグループに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile bootip bootip networktype networktype  
[ip ip] [excludeserver server[,server...]]  
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]  
[install-attributes] [server-configuration-attributes]
```

- サーバグループに OS アップデートをインストールする場合

```
load group group update update[,update...]
```

- サーバグループにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load group group firmware firmware [force]
```

パラメータ

- *agentssh* – プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの root 権限が必要です。*agentssh* は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。
- *agentsnmp* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP 資格を指定します。*agentsnmp* の形式は読み込みコミュニティ文字列です。
- *agentsnmpv3* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP Version 3 資格を指定します。*agentsnmpv3* の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *snmpv3-username/snmpv3-password*。
- *bootip* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用する、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング IP ともいう) です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲は次のように指定します。*ip-address -ip-address*。例:
10.0.0.1-10.0.0.3
- *excludeserver* – 1 つ以上のサーバーを、インストール対象から除外します。*server* は、プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。
- *feature feature* – インストール時に、プロビジョニング可能なサーバーに管理機能を追加します。*feature* 属性と同時に *agentssh* 属性を指定する必要があります。サーバーの *agentip* は、ロード処理時に自動的に *ip* 属性値に設定されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - *basemanagement* – 基本管理機能を追加します。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
 - *osmonitor* – OS 監視機能を追加します。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択されたプロビジョニング可能な各サーバーと一致する必要があります。設定が一致しない場合、アップデートは失敗します。
- *force* – サーバーの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *group* – サーバークループの名前です。
- *ip* – サーバーがインストールされたあとに、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に *bootip* (プロビジョニング IP) として使用されます。この属性は、*networktype* が *static* の場合にのみ必須です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲は次のように指定します。*ip-address-ip-address* (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。

- *networktype* – サーバーのインストール後の、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、*static* または *dhcp* です。*networktype* を *static* に設定した場合は、必ず *ip* 属性を指定する必要があります。
- *osprofile* – OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- *update* – OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、それらは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

インストール関係の属性

次の属性は、サーバーの起動とインストールに一時的に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。これらの属性が必要となるのは、Red Hat Linux または SUSE Linux のインストール時のみです。

- *bootgateway bootgateway* – サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- *bootnameserver bootnameserver* – サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- *bootnetmask bootnetmask* – サーバーのインストールに使用するネットマスクです。

サーバー構成関係の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。

- *domainname domainname* – (Solaris のみ) インストールしたサーバーに割り当てられるドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、*sun.com* になります。
- *gateway gateway* – インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- *kernelparameter kernelparameter* – (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。
- *nameserver nameserver* – インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- *netmask netmask* – インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。

load server

プロビジョニング可能なサーバーに、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデートなどのソフトウェアをインストールします。

形式

- 1 つ以上のサーバーに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile ip ip networktype static  
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]  
[install-attributes] [server-configuration-attributes]
```

- 1 つ以上のサーバーに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile bootip bootip  
networktype networktype [ip ip]  
[feature feature agentssh agentssh [agentsnmp agentsnmp] [agentsnmpv3 agentsnmpv3]]  
[install-attributes] [server-configuration-attributes]
```

- 1 つ以上のサーバーに OS アップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] update update[,update...]
```

- 1 つ以上のサーバーにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] firmware firmware [force]
```

パラメータ

- *agentssh* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの root 権限が必要です。*agentssh* は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。
- *agentsnmp* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP 資格を指定します。*agentsnmp* の形式は、読み込みコミュニティ文字列です。
- *agentsnmpv3* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP Version 3 資格を指定します。*agentsnmpv3* の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *snmpv3-username/snmpv3-password*。
- *bootip* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用する、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング IP ともいう) です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。*ip-address- ip-address*(例: 10.0.0.1-10.0.0.3)
- *feature feature* – インストール時に、プロビジョニング可能なサーバーに管理機能を追加します。*feature* 属性と同時に *agentssh* 属性を指定する必要があります。サーバーの *agentip* は、ロード処理時に自動的に *ip* 属性値に設定されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - *basemanagement* – 基本管理機能を追加します。この機能は、OS アップデートの配備およびリモートコマンドの実行に必要です。
 - *osmonitor* – OS 監視機能を追加します。この機能には、基本管理機能も含まれます。OS 監視機能は、サーバーの OS リソースの健全性状態を監視するために必要です。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。

- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択されたプロビジョニング可能な各サーバーと一致する必要があります。一致しない場合は、アップデートに失敗します。
- *force* – サーバーの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *ip* – サーバーがインストールされたあとに、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に *bootip* (プロビジョニング IP) として使用されます。この属性は、*networktype* が *static* の場合にのみ必須です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。*ip-address-ip-address* (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。
- *networktype* – サーバーのインストール後の、サーバーのプロビジョニングネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、*static* または *dhcp* です。*networktype* を *static* に設定した場合は、必ず *ip* 属性を指定する必要があります。
- *osprofile* – OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。
- *update* – OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、それらは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

インストール関係の属性

次の属性は、1 つ以上のサーバーのインストールに一時的に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- *bootgateway bootgateway* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- *boothostname boothostname* – (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストールに使用するホスト名です。
- *bootnameserver bootnameserver* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- *bootnetmask bootnetmask* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- *bootnetworkdevice bootnetworkdevice* – (単一サーバーのみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は *bge0* (デフォルト)、*bge1*、*bge2*、*bge3* です。Linux で有効な値は、*eth0* (デフォルト)、*eth1*、*eth2*、*eth3*、*eth4* です。
- *bootpath bootpath* – (単一サーバー、Solaris x86 のみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニング起動デバイスです。指定された場合は、*bootnetworkdevice* の値よりも優先されます。有効な値には次のようなものがあります。

- `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@2` – Sun Fire V20z、bge0 (デフォルト)
- `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@3` – Sun Fire V20z、bge1
- `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@2` – Sun Fire V40z、bge0 (デフォルト)
- `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@3` – Sun Fire V40z、bge1
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1` – Sun Fire X4000 シリーズ、bge0 (デフォルト)
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1,1` – Sun Fire X4000 シリーズ、bge1
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@2` – Sun Fire X4000 シリーズ、bge2
- `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@2,1` – Sun Fire X4000 シリーズ、bge3
- `/pci@0,0/pci108e,5348@a` – Sun Fire X2100、bge0 (デフォルト)
- `console console` – (単一サーバーのみ) インストールの監視に使用可能な、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttysa` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` – (単一サーバーのみ) サーバーのシステムコンソールのボーレートです。デフォルトは 9600 です。
- `kernelparameter kernelparameter` – (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。

サーバー構成関係の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `domainname domainname` – (Solaris のみ) インストールしたサーバーに割り当てられるドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、`sun.com` になります。
- `gateway gateway` – インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `hostname hostname` – (単一サーバーのみ) インストールしたサーバーに割り当てられるホスト名です。
- `nameserver nameserver` – インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- `netmask netmask` – インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `networkdevice networkdevice` – (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストール後のサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースです。デフォルトは `eth0` です。

remove

オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。

機能説明

remove コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 group、osprofile、role、server、user。

help remove *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

remove group

サーバーグループからサーバーを削除します。

形式

- サーバーグループから 1 つ以上のサーバーを削除する場合

```
remove group group server server[,server...]
```

- サーバーグループからすべてのサーバーを削除する場合

```
remove group group server all
```

パラメータ

- all – サーバーグループからすべてのサーバーを削除します。
- group – サーバーグループの名前です。
- server – 削除するプロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

remove osprofile

OS プロファイルから、ディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを削除します。

機能説明

このコマンドを使用中の (サーバーにアクティブに配備されている) プロファイルに対して実行することはできません。show osprofile コマンドを実行すると、OS プロファイルが使用中であるかがわかります。

形式

- OS プロファイルからディストリビューショングループを削除する場合

```
remove osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup
```

- OS プロファイルからディスクパーティション情報を削除する場合

```
remove osprofile osprofile partition partition
```

- OS プロファイルから OS アップデートを削除する場合

```
remove osprofile osprofile update update
```

- OS プロファイルからカスタムインストールスクリプトを削除する場合

```
remove osprofile osprofile script script
```

パラメータ

- *distributiongroup* – 削除するディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。
- *partition* – 削除するディスクパーティションのマウントポイント名です。
- *script* – 削除するカスタムインストールスクリプトの名前です。
- *update* – 削除する OS アップデートの名前です。

remove role

ロールから権限を削除します。

形式

- ロールから 1 つ以上の権限を削除する場合

```
remove role role privilege privilege [, privilege ...]
```

- ロールからすべての権限を削除する場合

```
remove role role privilege all
```

パラメータ

- *all* – ロールからすべての権限を削除します。
- *role* – ロールの名前です。次のシステムデフォルトのロールの権限は削除できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。

- *privilege* – ロールから削除する権限の名前です。

remove server

プロビジョニング可能なサーバーから OS 監視機能または基本管理機能を削除します。

機能説明

このコマンドを使用して OS 監視機能を削除する場合は、2つのレベルがあります。uninstall キーワードを指定しなかった場合、OS 監視機能はプロビジョニング可能なサーバーにインストールされたままになります。ただし、機能自体は無効になり、N1 System Manager でサーバーの OS を監視できなくなります。uninstall キーワードを指定した場合、OS 監視機能はプロビジョニング可能なサーバーからアンインストールされ、OS 監視機能は無効になります。どちらの方法を使用しても、OS 監視機能をいったん削除すると、サーバーの OS リソースの健全性状態は uninitialized になります。

基本管理機能を削除すると、機能はプロビジョニング可能なサーバーからアンインストールされ、無効になります。基本管理機能を削除するには、先に OS 監視機能をサーバーからアンインストールする必要があります。

機能を削除しても、add server コマンドを使用すればあとでいつでも追加できます。show server の出力の「基本管理サポートの有無」フィールドと「OS 監視サポートの有無」フィールドは、サーバーの機能の現在の状態を示します。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーから OS 監視機能を削除する場合

```
remove server server feature osmonitor [uninstall]
```
- プロビジョニング可能なサーバーから基本管理機能を削除する場合

```
remove server server feature basemanagement
```

パラメータ

- basemanagement – サーバーから基本管理機能をアンインストールします。基本管理機能を削除するには、先に OS 監視機能をサーバーからアンインストールする必要があります。
- osmonitor – サーバーから OS 監視機能のサポートを削除します。OS リソースの健全性状態は、uninitialized になります。
- server – サーバーの管理名です。

- `uninstall` – プロビジョニング可能なサーバーから OS 監視機能をアンインストールします。

remove user

ユーザーからロールを削除します。

形式

- ユーザーから 1 つ以上のロールを削除する場合

```
remove user user role role [,role...]
```

- ユーザーからすべてのロールを削除する場合

```
remove user user role all
```

パラメータ

- `all` – 指定したユーザーからすべてのロールを削除します。
- `role` – ユーザーから削除するロールの名前です。`show user user` コマンドで、ユーザーに割り当てられているすべてのロールの一覧を表示できます。
- `user` – ユーザーの名前です。

reset

プロビジョニング可能なサーバーを再起動します。

機能説明

`reset` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group` および `server`。

`help reset object` コマンドで詳細情報を得ることができます

reset group

プロビジョニング可能なサーバーグループを再起動 (電源オフ後に電源オン) します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループを再起動します。

```
reset group group [force] [netboot]
```

パラメータ

- **force** – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OS がインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないプロビジョニング可能なサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- **group** – サーバークループの名前です。
- **netboot** – グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。

reset server

プロビジョニング可能なサーバークループを再起動 (電源オフ後に電源オン) します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- プロビジョニング可能な 1 つ以上のサーバーを再起動する場合

```
reset server server[,server...] [force] [netboot]
```

- プロビジョニング可能なすべてのサーバーを再起動する場合

```
reset server all [force] [netboot]
```

パラメータ

- **all** – プロビジョニング可能なすべてのサーバーを再起動します。
- **force** – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OS がインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないプロビジョニング可能なサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- **netboot** – 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。
- **server** – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

set

オブジェクトまたはグループで属性を変更します。

機能説明

`set` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `firmware`、`group`、`notification`、`os`、`osprofile`、`role`、`server`、`session`、`user`。

`help set object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

set firmware

ファームウェアアップデートの属性を変更します。

形式

- さまざまなファームウェアアップデートの属性を変更します。

```
set firmware firmware [description description] [model model [,model]]  
[name name] [type type] [vendor vendor] [version version]
```

パラメータ

- *description* – ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* – ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra 240
 - NETRA-440 – Netra 440
 - SF-T1000 – Sun Fire T1000
 - SF-T2000 – Sun Fire T2000
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *name* – ファームウェアアップデートの新しい名前です。
- *type* – ファームウェアアップデートの種類を指定します。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネル

- SP – サービスプロセッサ
- *vendor* – ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* – ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

set group

サーバーグループの名前を変更するか、サーバーグループ上のロケータランプまたは監視状態を変更します。

形式

- サーバーグループの名前を変更する場合


```
set group group name name
```
- サーバーグループの最新の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合


```
set group group refresh
```
- サーバーグループの監視を有効または無効にする場合


```
set group group monitored monitored-state
```
- サーバーグループ上のロケータランプを点灯または消灯する場合


```
set group group locator locator-state
```
- プロビジョニング可能なサーバーのグループ上で、1 つ以上の OS 監視属性のしきい値を設定する場合


```
set group group threshold threshold
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```
- プロビジョニング可能なサーバーのグループ上で、fsusage.kbpacefree ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合


```
set group group [filesystem filesystem] threshold fsusage.kbpacefree
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```
- プロビジョニング可能なサーバーのグループ上で、fsusage.pctused ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合


```
set group group [filesystem filesystem] threshold fsusage.pctused
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- *filesystem* – 1 つ以上のしきい値を設定するファイルシステムを選択します。ファイルシステムでは、fsusage.pctused および fsusage.kbpacefree 監視属性のしきい値だけを設定できます。ファイルシステムを指定しなかった場合は、サーバー上のすべてのファイルシステムにしきい値が設定されます。値の例として、/ や /usr があります。

- *group* – サーバグループの名前です。
- *locator-state* – サーバグループのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は *true* (点灯) および *false* (消灯) です。
- *monitored-state* – サーバグループの監視を有効または無効にします。有効な値は、*true* (有効) および *false* (無効) です。
- *name* – サーバグループの新しい名前です。
- *refresh* – サーバグループの最新の設定および状態で管理サーバを更新します。更新される状態には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報が含まれます。
- *threshold* – 1 つ以上のしきい値を設定する OS またはファイルシステムの監視属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *cpustats.loadavg1min* – システムロードは、1 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg5min* – システムロードは、5 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg15min* – システムロードは、15 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.pctusage* – 全体的な CPU 使用率 (%) です。
 - *cpustats.pctidle* – 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
 - *fsusage.kbpacefree* – 空きファイルシステム領域 (K バイト) です。
filesystem 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
 - *fsusage.pctused* – ファイルシステム領域の使用率 (%) です。*filesystem* 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
 - *memusage.pctmemused* – メモリーの使用率 (%) です。
 - *memusage.pctmemfree* – 空きメモリー率 (%) です。
 - *memusage.mbmempused* – 使用メモリー (M バイト) です。
 - *memusage.mbmempfree* – 空きメモリー (M バイト) です。
 - *memusage.pctswapused* – スワップ領域の使用率 (%) です。
 - *memusage.mbswapfree* – 空きスワップ領域 (M バイト) です。
 - *memusage.kbswapused* – 使用スワップ領域 (K バイト) です。
- *value* – サーバのグループ上で OS またはファイルシステムの監視属性のしきい値を設定します。*criticallow*、*criticalhigh*、*warninglow*、*warninghigh* しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。*none* 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

set notification

通知規則の名前、説明、または通知先を変更します。

形式

- 通知グループの名前、説明、または通知先を変更します。

```
set notification notification [name name] [description description]  
[destination destination]
```

パラメータ

- *description* – 通知規則の新しい説明です。
- *destination* – 通知の新しい送信先です。送信先は、通知規則を作成したときに設定した、規則の *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* – 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *snmp-host[:port]* – SNMP ホストです。*snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、*port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *name* – 通知規則の新しい名前です。
- *notification* – 通知規則の名前です。

set os

OS ディストリビューションの名前を変更します。

形式

- OS ディストリビューションの名前を変更します。

```
set os os name name
```

パラメータ

- *name* – OS ディストリビューションの新しい名前です。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。

set osprofile

OS プロファイルの構成を変更します。

形式

- Solaris OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [solaris-profile-attributes]
```
- Red Hat Linux OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [redhat-profile-attributes]
```

- SUSE Linux OS プロファイルの構成を変更する場合

```
set osprofile osprofile [SUSE-profile-attributes]
```

パラメータ

- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。

OS プロファイルの属性は OS によって異なります。OS ごとの属性の一覧を次に示します。

Solaris プロファイルの属性

- *description description* – OS プロファイルの説明を指定します。
- *flar flar* – フラッシュアーカイブファイルの名前を指定します。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *language language* – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は *en_us* です。Solaris プロファイルの場合の有効な値は、*c*、*en_US.ISO8859-15*、*en_US.ISO8859-1*、*en_US* です。
- *ldap ldap* – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は *true* および *false* です。
- *ldapsrver ldapsrver* – LDAP サーバー名を指定します。
- *ldapbasename ldapbasename* – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- *name name* – OS プロファイルの名前を変更します。
- *nis nis* – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、*enabled*、*disabled* です。
- *nisdomain nisdomain* – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- *nissrver nissrver* – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する *broadcast* を設定します。
- *rootpassword rootpassword* – インストールされているサーバーの *root* パスワードを変更します。
- *timezone timezone* – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は *gmt* です。Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の */usr/share/lib/zoneinfo* ディレクトリにあるディレクトリおよびファイルに含まれています。*timezone* 値は、*/usr/share/lib/zoneinfo* ディレクトリへの相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の *timezone* 値は *US/Mountain* です。日本の *timezone* 値は *Japan* です。

Red Hat Linux プロファイルの属性

- *clearmbr clearmbr* – サーバー上のマスターブートレコードをクリアします。有効な値は *true* および *false* です。

- `description` *description* – OS プロファイルの説明を指定します。
- `existingpartition` *existingpartition* – インストール中にサーバーの既存のパーティションに行う処理です。有効な値には次のようなものがあります。
 - `all` – デフォルト値です。すべての既存パーティションを削除します。
 - `linux` – すべての Linux パーティションを削除します。
 - `preserve` – 既存のすべてのパーティションを保持します。
- `initdisklabel` *initdisklabel* – ディスクラベルを初期化します。有効にした場合、ジオメトリおよびパーティション情報を含むディスクの最初のセクタはインストール中に初期化されます。有効な値は `true` および `false` です。
- `language` *language* – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は、`cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。
- `ldap` *ldap* – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldapserver` *ldapserver* – LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbasename` *ldapbasename* – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `md5` *md5* – MD5 チェックサムを有効にします。有効な場合は、インストール中に、ファイルおよびメッセージの整合性が検査されます。有効な値は `true` および `false` です。
- `name` *name* – OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis` *nis* – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain` *nisdomain* – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `nissserver` *nissserver* – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `rebootafterinstall` *rebootafterinstall* – インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword` *rootpassword* – インストールされているサーバーの root パスワードを変更します。
- `shadowpassword` *shadowpassword* – シャドウパスワードを有効にします。有効な値は `true` および `false` です。
- `timezone` *timezone* – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

SUSE Linux プロファイルの属性

- `description` *description* – OS プロファイルの説明を指定します。

- `ftpproxy` *ftpproxy* – インストールされているサーバー用の FTP プロキシサーバーを指定します。`proxy` 属性は、認識可能な形式である必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例:
`http://129.101.1.240:3128` または `http://proxy.provider.com:3128`
- `httpproxy` *httpproxy* – インストールされているサーバー用の HTTP プロキシサーバーを指定します。`proxy` 属性は、認識可能な形式である必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例:
`http://129.101.1.240:3128` または `http://proxy.provider.com:3128`
- `language` *language* – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は、`cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。
- `ldap` *ldap* – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldapservice` *ldapservice* – LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbasename` *ldapbasename* – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `name` *name* – OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis` *nis* – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain` *nisdomain* – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `nisservice` *nisservice* – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `proxy` *proxy* – インストールされているサーバー上でプロキシサーバーを有効または無効にします。有効な値は、`enabled` (デフォルト)、`disabled` です。プロキシサーバーを指定するには、`ftpproxy` および `httpproxy` 属性を使用します。
- `rebootafterinstall` *rebootafterinstall* – インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword` *rootpassword* – インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。
- `timezone` *timezone* – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

set role

ロールの説明を変更します。

形式

- ロールの説明を変更します。

```
set role role description description
```

パラメータ

- *role* – ロールの名前です。
- *description* – ロールの新しい説明です。

set server

プロビジョニング可能なサーバーの構成情報を変更するか、サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新します。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーの構成を変更する場合

```
set server server configuration-attributes
```

- サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合

```
set server server refresh
```

- プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用されている IP アドレスおよび SSH 資格を変更する場合

```
set server server agentip agentip agentssh agentssh
```

- プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を設定する場合

```
set server server agentsnmp agentsnmp  
set server server agentsnmpv3 agentsnmpv3
```

- プロビジョニング可能なサーバーの監視を有効または無効にする場合

```
set server server monitored monitored-state
```

- プロビジョニング可能なサーバー上のロケータランプを点灯または消灯する場合

```
set server server locator locator-state
```

- プロビジョニング可能なサーバー上で、OS 監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server threshold threshold  
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- プロビジョニング可能なサーバー上で、fsusage.kbpacefree ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server [filesystem filesystem] threshold fsusage.kbpacefree  
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

- プロビジョニング可能なサーバー上で、`fsusage.pctused` ファイルシステム監視属性のしきい値を設定する場合

```
set server server [filesystem filesystem] threshold fsusage.pctused
[criticallow value] [criticalhigh value] [warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- `agentip` – プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する IP アドレスを変更します。`agentip` は通常、サーバー上のプロビジョニングネットワークインタフェースの IP アドレスです。
- `agentsnmp` – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP 資格を指定します。`agentsnmp` の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。
- `agentsnmpv3` – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP Version 3 資格を指定します。`agentsnmpv3` の形式は、ユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: `snmpv3-username/snmpv3-password`。
- `agentssh` – プロビジョニング可能なサーバーで、OS 監視を含む管理機能に使用する SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの root 権限が必要です。`agentssh` は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: `ssh-username/ssh-password`。
- `filesystem` – 1 つ以上のしきい値を設定するファイルシステムを選択します。ファイルシステムでは、`fsusage.pctused` および `fsusage.kbpacefree` 監視属性のしきい値だけを設定できます。ファイルシステムを指定しなかった場合は、サーバー上のすべてのファイルシステムにしきい値が設定されます。値の例として、`/` や `/usr` があります。
- `locator-state` – サーバーのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は `true` (点灯) および `false` (消灯) です。
- `monitored-state` – プロビジョニング可能なサーバーの監視を有効または無効にします。有効な値は `true` (有効) および `false` (無効) です。
- `refresh` – サーバーの現在の設定および状態で管理サーバーを更新します。更新される情報には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報があります。
- `server` – サーバーの管理名です。
- `threshold` – 1 つ以上のしきい値を設定する OS またはファイルシステムの監視属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - `cpustats.loadavg1min` – システムロードは、1 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg5min` – システムロードは、5 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.loadavg15min` – システムロードは、15 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - `cpustats.pctusage` – 全体的な CPU 使用率 (%) です。

- `cpustats.pctidle` – 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
- `fsusage.kbpacefree` – 空きファイルシステム領域 (K バイト) です。
`filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
- `fsusage.pctused` – ファイルシステム領域の使用率 (%) です。`filesystem` 属性と同時に使用して、特定のファイルシステムのしきい値を設定できます。
- `memusage.pctmemused` – メモリーの使用率 (%) です。
- `memusage.pctmemfree` – 空きメモリー率 (%) です。
- `memusage.mbmempused` – 使用メモリー (M バイト) です。
- `memusage.mbmempfree` – 空きメモリー (M バイト) です。
- `memusage.pctswapused` – スワップ領域の使用率 (%) です。
- `memusage.kbswapused` – 使用スワップ領域 (K バイト) です。
- *value* – プロビジョニング可能なサーバー上で OS またはファイルシステムの監視属性のしきい値を設定します。`criticallow`、`criticalhigh`、`warninglow`、`warninghigh` しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。`none` 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

構成関係の属性

- `agentsnmp agentsnmp` – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視用の SNMP 資格を指定します。`agentsnmp` の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。例: `read-community`。
- `ip ip` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスを変更します。
- `ipmi ipmi` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの IPMI 資格を変更します。`ipmi` 値は IPMI パスワードです。
- `name name` – サーバーの名前を変更します。
- `note note` – サーバーのコメントを変更します。コメントは引用符で囲む必要があります。現在のコメントは新しいコメントによって上書きされます。
- `snmp snmp` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SNMP 資格を変更します。`snmp` の形式は、SNMP 資格の読み込みコミュニティ文字列です。例: `read-community`。
- `ssh ssh` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SSH 資格を変更します。`ssh` の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: `ssh-username/ssh-password`。

set session

このコマンドは、現在のセッションのユーザーロールまたは出力形式を変更します。

形式

- 現在のセッションでのユーザーのロールを変更する場合

```
set session role role
```

- 現在のセッションでの出力形式を変更する場合

```
set session output output
```

パラメータ

- *output* – 現在のセッション用の出力形式です。有効な値は、text (デフォルト)、html、xml です。
- *role* – 新しいロールの名前です。

set user

ユーザーのデフォルトロールを変更します。

形式

- ユーザーのデフォルトロールを変更します。

```
set user user defaultrole defaultrole
```

パラメータ

- *defaultrole* – ユーザーの新しいデフォルトロールの名前です。
- *user* – ユーザーの名前です。

show

オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。

機能説明

show コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。firmware、group、job、log、notification、os、osprofile、privilege、role、server、session、update、user です。

help show *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

show firmware

すべてのコピーされたファームウェアアップデートを一覧表示するか、特定のファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのファームウェアアップデートを一覧表示する場合

```
show firmware [all]
```
- ファームウェアアップデートのリストを選別する場合

```
show firmware [model model] [type type] [vendor vendor]
```
- ファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show firmware firmware
```

パラメータ

- *all* – すべてのファームウェアアップデートを一覧表示します。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* – ファームウェアアップデートの一覧をモデル名で選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra 240
 - NETRA-440 – Netra 440
 - SF-T1000 – Sun Fire T1000
 - SF-T2000 – Sun Fire T2000
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *type* – ファームウェアアップデートのリストを選別します。このフィルタは、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ使用可能です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP – サービスプロセッサ
- *vendor* – ファームウェアアップデートの一覧をベンダーに基づいて選別します。

show group

すべてのサーバーグループを一覧表示するか、特定のサーバーグループの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのサーバーグループを一覧表示する場合
`show group [all]`
- サーバーグループの詳細情報を一覧表示する場合
`show group group`

パラメータ

- `all` – すべてのサーバーグループを一覧表示します。
- `group` – サーバーグループの名前です。

show job

すべてのジョブ、特定のジョブの詳細情報、または指定したフィルタに従って選別されたジョブを一覧表示します。

形式

- 特定のジョブの詳細情報を一覧表示する場合
`show job job`
- すべてのジョブを降順に一覧表示する場合
`show job all`
- ジョブ一覧をフィルタで選別する場合
`show job [count count] [endbefore endbefore] [endafter endafter]
[owner owner] [startbefore startbefore] [startafter startafter]
[state state] [target server] [type type]`

パラメータ

- `all` – すべてのジョブを降順に一覧表示します。
- `count` – 降順に一覧表示するジョブ数です。デフォルトは 500 です。
- `endafter` – 特定の日時よりあとに完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04

- *endbefore* – 特定の日時より前に完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *job* – ジョブの識別番号です。
- *server* – サーバーの管理名です。特定のサーバーに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
- *startafter* – 特定の日時よりあとに開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *startbefore* – 特定の日時より前に開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *state* – 特定のジョブ状態に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
 - *completed* – 完了したジョブを一覧表示します。
 - *error* – エラー終了したジョブを一覧表示します。
 - *notstarted* – 開始されなかったジョブを一覧表示します。
 - *preflight* – 事前実行、テスト状態のジョブを一覧表示します。
 - *pendingstop* – ユーザーによって取り消されたジョブを一覧表示します。ジョブを取り消すには、すべてのサーバーでジョブの現在のステップが終了している必要があります。終了するまで、ジョブはこの状態になります。
 - *running* – 現在実行中のジョブを一覧表示します。
 - *stopped* – 取り消されたか、中止されたジョブを一覧表示します。
 - *timedout* – タイムアウトして完了しなかったジョブを一覧表示します。
 - *warning* – 警告で完了したジョブを一覧表示します。
- *type* – 特定のジョブの種類に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
 - *addbase* – 基本管理機能の追加
 - *addosmonitor* – OS 監視機能の追加
 - *createos* – メディア (CD/DVD) または ISO ファイルから OS ディストリビューションを作成
 - *deletejob* – ジョブの削除
 - *discover* – サーバー検出
 - *loadfirmware* – ファームウェアアップデートのロード
 - *loados* – OS のロード
 - *loadupdate* – OS アップデートのロード
 - *refresh* – サーバーの更新
 - *removeosmonitor* – OS 監視機能の削除
 - *reset* – サーバーの再起動
 - *setagentip* – 管理機能設定の変更
 - *start* – サーバーの電源投入
 - *startcommand* – リモートコマンドの実行

- `stop` – サーバーの電源切断
- `unloadupdate` – OS アップデートのアンロード
- `owner` – ユーザー名です。特定のユーザーに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。

日時の表示形式

`endbefore`、`endafter`、`startbefore`、および `startafter` オプションには、次の日時の表示形式を使用します。

`[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]`

- `CC` – 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の `CC` は 19、2007 年の `CC` は 20 です。
- `YY` – 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (`CC`) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- `MM` – 月を示す数です。
- `DD` – その月の日を示す数です。`DD` の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- `T` – 日付/時刻の区切り文字です。
- `hh` – 時を示す数 (24 時間制) です。`hh` の値は 0 から 23 の範囲です。
- `mm` – 分を示す数です。`mm` の値は 0 から 59 の範囲です。
- `ss` – 秒を示す数です。`ss` の値は 0 から 60 の範囲です。
- `Z` – タイムゾーンを示します。Pacific Standard Time (PST) などの一般的なタイムゾーンや、`-0800` などの RFC 822 タイムゾーンを指定できます。

show log

N1 System Manager またはプロビジョニング可能なサーバーに記録されているすべてのイベント、特定のイベントの詳細情報、または特定のフィルタに基づくイベントを一覧表示します。

形式

- 特定のイベントの詳細情報を一覧表示する場合

```
show log log
```

- イベントを降順に一覧表示する場合デフォルトでは、最新の 500 個のイベントが一覧表示されます。

```
show log [count count]
```

- イベント一覧をフィルタで選別する場合

```
show log [after after] [before before] [count count] [severity severity]
```

パラメータ

- *after* – 特定の日時よりあとのイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *before* – 特定の日時より前のイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は、あとの説明を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *count* – 降順に一覧表示するイベント数です。デフォルトは 500 です。
- *log* – イベントの識別番号です。
- *severity* – 特定の重要度のイベントを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。
 - unknown
 - other
 - information
 - warning
 - minor
 - major
 - critical
 - fatal

日時の表示形式

after オプションおよび *before* オプションには、次の日時の表示形式を使用します。

[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]

- CC – 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の CC は 19、2007 年の CC は 20 です。
- YY – 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (CC) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- MM – 月を示す数です。
- DD – その月の日を示す数です。DD の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- T – 日付/時刻の区切り文字です。
- hh – 時を示す数 (24 時間制) です。hh の値は 0 から 23 の範囲です。
- mm – 分を示す数です。mm の値は 0 から 59 の範囲です。
- ss – 秒を示す数です。ss の値は 0 から 60 の範囲です。
- Z – タイムゾーンを示します。Pacific Standard Time (PST) などの一般的なタイムゾーンや、-0800 などの RFC 822 タイムゾーンを指定できます。

show notification

すべての通知規則を一覧表示するか、特定の通知規則の詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべての通知規則を一覧表示する場合

```
show notification [all]
```

- 特定の通知規則の詳細情報を一覧表示する場合

```
show notification notification
```

パラメータ

- *all* – すべての通知規則を一覧表示します。
- *notification* – 通知規則の名前です。

show os

N1 System Manager から使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示するか、特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os [all]
```

- 特定の OS の種類で使用可能な OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os type
```

- 特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示する場合 (ディストリビューショングループの一覧を含む)

```
show os os
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示します。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。
- *type* – OS ディストリビューションの種類です。有効な値は、redhat、solaris、および suse です。

show osprofile

使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示するか、特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile [all]
```

- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile os os
```

- 特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示する場合

```
show osprofile osprofile
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示します。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。
- *os* – フィルタ条件として使用する OS ディストリビューションの名前です。

show privilege

使用可能なすべての権限を一覧表示するか、特定の権限の詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての権限を一覧表示する場合

```
show privilege [all]
```

- 特定の権限の詳細情報を一覧表示する場合

```
show privilege privilege
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての権限を一覧表示します。
- *privilege* – 権限の名前です。

show role

このコマンドは、すべての使用可能なロールまたは特定のロールの権限を一覧表示します。

形式

- すべての使用可能なロールおよびそれらに割り当てられた権限を一覧表示する場合

```
show role [all]
```

- 特定のロールの権限を一覧表示する場合

```
show role role
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべてのロールとそれらのロールに割り当てられている権限を一覧表示します。
- *role* – ロールの名前です。

show server

使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーかフィルタで選別したプロビジョニング可能なサーバー、または特定のサーバーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示する場合

```
show server [all]
```

- 特定のプロビジョニング可能なサーバーの詳細情報を一覧表示する場合

```
show server server
```

- さまざまな状態に基づいてフィルタで選別し、プロビジョニング可能なサーバーを一覧表示する場合

```
show server [ip ip[,ip...]] [jobcount jobcount] [model model]  
[name name] [runningos runningos]  
[hardwarehealth hardwarehealth] [oshealth oshealth] [power power]
```

パラメータ

- *all* – 使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示します。
- *ip* – プロビジョニング可能なサーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づいて選別します。次の形式で、複数の *ip* のインスタンスを指定することができます。コンマで区切って指定します。
 - *ip-address* – 単一の管理ネットワーク IP アドレス。
 - *ip-address-ip-address* – 管理ネットワーク IP アドレスの範囲。例:
10.5.10.1-10.5.10.100

- *subnet/mask-length* – サブネットとそのマスクの長さ。例: 10.0.8/24 または 10.0.8.128/28
- *jobcount* – プロビジョニング可能なサーバーで実行中のジョブの数に基づいて選別します。*jobcount* は 0 または正の整数です。
- *model* – プロビジョニング可能なサーバーのモデル名に基づいて選別します。サーバーのモデル名は、`show server` コマンドの出力の「ハードウェア」列に表示されます。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。スペースを含む値は引用符で囲む必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra 240
 - NETRA-440 – Netra 440
 - SF-T1000 – Sun Fire T1000
 - SF-T2000 – Sun Fire T2000
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *name* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名に基づいて選別します。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。スペースを含む値は引用符で囲む必要があります。
- *runningos* – プロビジョニング可能なサーバーで稼働中の OS に基づいて選別します。サーバーの稼働 OS は、`show server` コマンドの出力の「使用 OS」列に表示されます。暗黙でワイルドカードによる検索が行われます。スペースを含む値は引用符で囲む必要があります。
- *hardwarehealth* – ハードウェアの健全性状態に基づいてプロビジョニング可能なサーバーを選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *critical* – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - *good* – サーバーのハードウェアは正しく機能しています。
 - *nonrecoverable* – サーバーが、まったく機能できない状態です。回復できません。
 - *monitored* – サーバー上で監視が有効になっています。
 - *unknown* – サーバーからハードウェアの健全性に関する情報が返されません。
 - *unmonitored* – 監視が無効にされているため、サーバーからハードウェアの健全性に関する情報が返されません。
 - *unreachable* – サーバーにアクセスできず、ハードウェアの健全性に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
 - *warning* – サーバーで潜在的な、またはすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。

- *oshealth* – プロビジョニング可能なサーバーを、特定の OS リソースの健全性状態に基づいて選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *critical* – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - *good* – OS が起動し、サーバーは正しく機能しています。
 - *monitored* – サーバー上で監視が有効になっています。
 - *uninitialized* – OS 監視機能が追加されていないために、サーバーが OS リソースの健全性に関する情報を送信していません。
 - *unknown* – サーバーから OS リソースの健全性に関する情報が返されません。
 - *unmonitored* – 監視が無効にされているため、サーバーから OS リソースの健全性に関する情報が返されません。
 - *unreachable* – サーバーにアクセスできず、OS リソースの健全性に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
 - *warning* – サーバーで潜在的な、またはすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。
- *power* – 特定の電源状態に基づいてプロビジョニング可能なサーバーを選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *on* – サーバーは電源が入り、動作しています。
 - *standby* – サーバーの電源は切断されていますが、起動などのコマンドに応答できる状態です。
 - *unknown* – サーバーから電源の状態情報が返されません。
 - *unreachable* – サーバーにアクセスできず、電源状態に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
- *server* – サーバーの管理名です。

show session

セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

形式

- セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

```
show session
```

show update

すべての OS アップデートを一覧表示するか、特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update [all]
```

- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update os os
```

- 特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show update update
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示します。
- *os* – リストの選別に使用する OS ディストリビューションの名前です。
- *update* – OS アップデートの名前です。

show user

使用可能なすべてのユーザーを一覧表示するか、特定のユーザーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示する場合

```
show user [all]
```

- 特定のユーザーの詳細情報 (ユーザーに割り当てられているロールおよびデフォルトのロールを含む) を一覧表示する場合

```
show user user
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示します。
- *user* – ユーザーの名前です。

start

オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れて起動したり、通知規則を有効にしたりできます。

機能説明

`start` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group、notification、server。

`help start object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

start group

プロビジョニング可能なサーバーグループの電源を入れて起動するか、サーバーグループでリモートコマンドを発行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループの電源を入れ、起動する場合
`start group group [netboot]`
- サーバーのグループでリモートコマンドを発行する場合
`start group group command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]`

パラメータ

- *agentssh* – リモートコマンド用に、プロビジョニング可能なサーバー上で SSH 資格を手動で指定します。
- *command* – サーバーのグループ上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *group* – サーバーグループの名前です。
- *netboot* – グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。
- *timeout* – コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

start notification

通知規則を有効にする、またはテストします。

形式

- 通知規則を有効にする場合
`start notification notification`

- 通知規則の送信先および種類に基づいてテスト用の通知メッセージを送信する場合

```
start notification notification test
```

パラメータ

- *notification* – 通知規則の名前です。
- *test* – 通知規則をテストします。

start server

プロビジョニング可能なサーバーの電源を入れて起動するか、プロビジョニング可能なサーバーでリモートコマンドを遠隔から発行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- すべてのプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れ、起動する場合

```
start server all [netboot]
```

- 1つ以上のプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れ、起動する場合

```
start server server [,server...] [netboot]
```

- 1つ以上のサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server server [,server] command "command" [agentssh agentssh]  
[timeout timeout]
```

- すべてのサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server all command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```

パラメータ

- *agentssh* – リモートコマンド用に、プロビジョニング可能なサーバー上で SSH 資格を手動で指定します。
- *all* – すべてのプロビジョニング可能なサーバー上で電源を入れる、またはリモートコマンドを発行します。
- *command* – プロビジョニング可能なサーバー上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *netboot* – 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用して、ネットワークを経由してサーバーをインストールすることができます。

- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。
- *timeout* – コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

stop

オブジェクトを無効にします。たとえばプロビジョニング可能なサーバーを停止して電源をオフにしたり、ジョブを取り消したりできます。

機能説明

stop コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group、job、notification、server。

help stop *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

stop group

プロビジョニング可能なサーバーグループを停止して電源をオフにします。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループを停止して電源をオフにします。
`stop group group [force]`

パラメータ

- *force* – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OS がインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないプロビジョニング可能なサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- *group* – サーバーグループの名前です。

stop job

ジョブの実行を停止します。停止されたジョブは、aborted 状態になります。

形式

- 単一ジョブの実行を停止します。
`stop job job`

パラメータ

- *job* – ジョブの識別番号です。

stop notification

通知規則を無効にします。

形式

- 通知規則を無効にします。

```
stop notification notification
```

パラメータ

- *notification* – 通知規則の名前です。

stop server

プロビジョニング可能なサーバーを停止して電源をオフにします。

形式

- 1つ以上のサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server server [, server...] [force]
```

- すべてのサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server all [force]
```

パラメータ

- *all* – プロビジョニング可能なすべてのサーバーを停止して電源をオフにします。
- *force* – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。OS がインストールされていない、または基本管理機能が追加されていないプロビジョニング可能なサーバーの電源をオフにするときは、このオプションを使用する必要があります。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

unload

プロビジョニング可能なサーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

機能説明

unload コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group` および `server`。

`help unload object` コマンドで詳細情報を得ることができます

unload group

プロビジョニング可能なサーバーグループから OS アップデートをアンインストールします。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループから OS アップデートをアンインストールします。

```
unload group group update update
```

パラメータ

- `group` – サーバーグループの名前です。
- `update` – OS アップデートの名前です。ユーザーが指定した名前が見つからなかった場合、このコマンドは、ファイル名が一致する OS アップデートのアンインストールを試みることに注意してください。 `show update` コマンドで OS アップデートに対応するファイル名を一覧表示することができます。

unload server

プロビジョニング可能なサーバーから OS アップデートをアンインストールします。

形式

- プロビジョニング可能な 1 つ以上のサーバーから OS アップデートをアンインストールします。

```
unload server server[,server...] update update
```

パラメータ

- `server` – 1 つ以上のサーバーの管理名です。

- *update* – OS アップデートの名前です。ユーザーが指定した名前が見つからなかった場合、このコマンドは、ファイル名が一致する OS アップデートをアンインストールしようとしています。show update コマンドで OS アップデートに対応するファイル名を一覧表示することができます。

オブジェクトのヘルプ

ここでは、N1 System Manager コマンドで管理可能なオブジェクトについて説明します。

使用可能なオブジェクトを次の表に示します。

オブジェクト	定義
firmware	プロビジョニング可能なサーバー用のファームウェアアップデートです。
group	プロビジョニング可能なサーバーのグループです。
job	特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。
log	プロビジョニング可能なサーバー、または N1 System Manager から生成されたイベントです。
notification	ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。
os	インストール可能な OS のイメージです。OS ディストリビューションともいいます。
osprofile	OS プロファイル。OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。
privilege	N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする、定義済みのアクセス権セットです。権限は、ロールに権限を割り当て、そのロールをユーザーに割り当てることによってユーザーに付与します。
role	N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の 3 つの定義済みロールがあります。ReadOnly、SecurityAdmin、Admin。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できます。ただしユーザーが定義済みのロールを変更することはできません。
server	プロビジョニング可能なサーバー。N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。

オブジェクト	定義
session	アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび <code>n1sh</code> コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが1つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。
update	OS アップデート (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたはパッケージ、Red Hat オペレーティングシステムの場合は RPM)。
user	N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。

firmware

`firmware` オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバー用のファームウェアアップデートです。

機能説明

`firmware` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 `create`、`delete`、`set`、`show`。ファームウェアアップデートのインストールには、`load server` または `load group` コマンドを使用します。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

group

`group` オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバーのグループです。

機能説明

`group` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 `add`、`create`、`delete`、`load`、`remove`、`reset`、`set`、`show`、`start`、`stop`、`unload`。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

job

`job` オブジェクトは、特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。

機能説明

job オブジェクトには次のコマンドを使用できます。delete、show、stop。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

log

log オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバーまたは N1 System Manager から生成されたイベントです。

機能説明

log オブジェクトには次のコマンドを使用できます。show。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

notification

notification オブジェクトは、ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。

機能説明

notification オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show、start、stop。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

OS

os オブジェクトは、インストール可能な OS のイメージです。OS ディストリビューションともいいます。

機能説明

os オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、set、show。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

osprofile

osprofile オブジェクトは、OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。

機能説明

osprofile オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。OS プロファイルをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

privilege

privilege オブジェクトは、N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする定義済みのアクセス権セットです。権限は、ロールに権限を割り当て、そのロールをユーザーに割り当てることによってユーザーに付与します。

機能説明

privilege オブジェクトには次のコマンドを使用できます。show。ロールに権限を追加したり、ロールから権限を削除したりするには、それぞれ add role および remove role コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

role

role オブジェクトは、N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の3つの定義済みロールがあります。ReadOnly、SecurityAdmin、Admin。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できますが、定義済みのロールを変更することはできません。

機能説明

role オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。ユーザーにロールを追加またはユーザーからロールを削除するには、それぞれ add user および remove user コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

server

server オブジェクトはプロビジョニング可能なサーバーです。これは、N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。

機能説明

server オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、connect、delete、load、remove、reset、show、start、stop、unload。プロビジョニング可能なサーバーの検出には、discover コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

session

session オブジェクトは、アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび n1sh コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが1つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。

機能説明

session オブジェクトには次のコマンドを使用できます。set および show。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

update

update オブジェクトは OS アップデートのことです (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたはパッケージ、Red Hat オペレーティングシステムの場合は RPM)。

機能説明

update オブジェクトには次のコマンドを使用できます。create、delete、show。OS アップデートをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

user

user オブジェクトは、N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。

機能説明

`user` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。add、create、delete、remove、set、show。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

